

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成27年1月9日

協議会名:長野県公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
長電バス(株)	山田温泉線(原宮経由)	高山村が村民に対して回数券を割引価格で提供し、利便向上を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:16.7 に対して、利用者が伸びなかったことから 実績輸送量16.3であった。	高山村及び須坂市と連携を図り系統、便数等の見直しを行い、収支改善を図るとともに、時刻表等を作成し、利用促進を図る。
	山田温泉線(駒場経由)	高山村が村民に対して回数券を割引価格で提供し、利便向上を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:17.6 に対して、利用者が伸びなかったことから 実績輸送量17.2であった。	高山村及び須坂市と連携を図り系統、便数等の見直しを行い、収支改善を図るとともに、時刻表等を作成し、利用促進を図る。
	上林線 ※ワンステップバス車両購入	収益改善の取組として「電車・バス共通乗車定期利用」のサービスを開始し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:23.5 に対して 実績輸送量24.0であった。	沿線市町の協議会等において、引き続き地域の交通手段確保に向け効率的なルート・サービスを検討しつつ、系統の運行維持を協議会等において図りながら進めていく。
	須賀川線	収益改善の取組として「電車・バス共通乗車定期利用」のサービスを開始し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:19.6 に対して、利用者が伸びなかったことから 実績輸送量18.2であった。	沿線市町の協議会等において、引き続き地域の交通手段確保に向け効率的なルート・サービスを検討していく。(市内の総合病院経由にルートを変更することなど再検討を行う。)
	永田線	長野電鉄とJR飯山線との接続を考慮したダイヤ編成を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:31.0 に対して、利用者が伸びなかったことから 実績輸送量28.8であった。	沿線市の協議会等において、引き続き地域の交通手段確保に向け効率的なルート・サービスを検討していく。(利用実績に見合ったダイヤを検討していく。)
	屋島線	一部同区間を運行する綿内屋島線との効率的な運行を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:24.6 に対して、利用者が伸びなかったことから 実績輸送量23.5であった。	ICカード利用実績等を活用しながらより効率的なダイヤ編成を行い、利用者増を図っていく。
	牟礼線	長野駅発の最終便を繰下げ利便性向上を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:38.7 に対して、利用者が伸びなかったことから 実績輸送量35.2であった。	ICカード利用実績等を活用しながらより効率的なダイヤ編成を行い、利用者増を図っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
長電バス(株)	野沢線	利用者の少ない系統の減便を検討し	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量:47.0 に対して、利用者が伸びなかったことから 実績輸送量45.5であった。	北陸新幹線飯山駅開業に伴い、野沢温泉村、木島平村への2次交通としての運行を図る
	中野木島線 ※ワンステップバス車両購入	朝の通学時間帯において効率の良い車両台数で運行開始	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量:24.6 に対して、利用者が伸びなかったことから 実績輸送量23.4であった。	北陸新幹線飯山駅開業に伴い、中野市への2次交通としての運行を図るとともに沿線市の商業施設への運行経路変更の検討を図っていく。
	屋代須坂線(須坂駅～屋代駅)	バリアフリー(車いす)対応便の増強と若穂病院停留所の整備を行い、利便性向上を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	目標輸送量:28.8 に対して、利用者が伸びなかったことから 実績輸送量19.2であった。	土曜・休日において、利用者の少ない便については運休し経費削減を図ることを長野・須坂・千曲市と協議を行う。
	屋代須坂線(須坂駅～松代駅)	バリアフリー(車いす)対応便の増強と若穂病院停留所の整備を行い、利便性向上を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	目標輸送量:28.8 に対して、利用者が伸びなかったことから 実績輸送量20.0であった。	土曜・休日において、利用者の少ない便については運休し経費削減を図ることを長野市及び須坂市と協議を行う。
アルピコ交通(株)	高府線(善光寺大門～高府)	利用者が使いやすい公共交通サービスを提供するため、ICカードくるのデータを継続的に分析した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量37.9 に対して、利用者が伸びなかったことから 実績輸送量36.5であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、ダイヤ・運賃の適正化、車内機器の更新などを視野に入れ、一層の利用促進を図っていく。平成27年度にノンステップバスを新車導入予定。
	高府線(善光寺大門～初引)	利用者が使いやすい公共交通サービスを提供するため、ICカードくるのデータを継続的に分析した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量19.2 に対して 実績輸送量19.6であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、ダイヤ・運賃の適正化、車内機器の更新などを視野に入れ、一層の利用促進を図っていく。平成27年度にノンステップバスを新車導入予定。
	鬼無里線 ※ノンステップバス車両購入	利用者が使いやすい公共交通サービスを提供するため、ICカードくるのデータを継続的に分析するとともに、新車のノンステップ車両を導入した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量44.7 に対して 実績輸送量44.7であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、ダイヤ・運賃の適正化及び車両更新などを視野に入れながら、一層の利用促進を図っていく。
	県道戸隠線	利用者が使いやすい公共交通サービスを提供するため、ICカードくるのデータを継続的に分析した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量41.0 に対して 実績輸送量41.0であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、ダイヤ・運賃の適正化及び車両更新などを視野に入れながら、一層の利用促進を図っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
アルピコ交通(株)	新町大原橋線(善光寺大門～新町)	利用者が使いやすい公共交通サービスを提供するため、ICカードくるのデータを継続的に分析した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量30.1に対して、利用者が伸びなかったことから実績輸送量29.5であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、ダイヤ・運賃の適正化、中古の低床車両の購入、車内機器の更新などを視野に入れ、一層の利用促進を図っていく。
	新町大原橋線(善光寺大門～大原橋・犀峡高校)	利用者が使いやすい公共交通サービスを提供するため、ICカードくるのデータを継続的に分析した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量27.2に対して実績輸送量29.6であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、ダイヤ・運賃の適正化、中古の低床車両の購入、車内機器の更新などを視野に入れ、一層の利用促進を図っていく。
	山形線	協議会と連携して平成26年度版の全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を図っている。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 主な利用者である山形村民に向けた利用促進策が実施できなかったことから、平均利用者数は、目標20.4人/便に対し、19.2人/便であった。	山形村・松本市地域公共交通会議と連携した利用促進策を継続し、一層の利便向上を図っていく。平成27年度にノンステップバスを新車導入予定。
	四賀線 ※ノンステップバス車両購入	協議会と連携して全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を実施するとともに、バリア解消を目的としてノンステップバスを1台導入した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 平均利用者数は、目標34.0人/便に対し、31.4人/便であったが、四賀地区の利用者は増加傾向と考えられる。	松本市地域公共交通会議と連携した利用促進策を継続するとともに、中古の低床車両購入、ダイヤの適正化を視野に入れ、一層の利便向上を図っていく。
	本線	従来の回数券より、割引率の高い回数券(ラ・クーポン)を導入し利用促進を図っている。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 平均利用者数の目標、30.0人/便に対し、実績は19.2人と目標に及ばなかった。	現在は岡谷～茅野系統のみであるが、系統の見直しも検討する。また、茅野市バス路線案内時刻表や、岡谷市シルキーバス時刻表に当該路線の時刻を掲載するとともにバス利用の仕方等も掲載し利用増を図る。
千曲バス(株)	佐久上田線	26年3月に佐久医療センターの乗り入れを開始し利便性の向上を図っている。また、25年10月より上田市運賃低減バス実証運行開始にともない、利用啓発活動を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量: 20.0に対して、利用者が伸びなかったことから実績輸送量17.7であった。	26年10月より土日祝日の運休を実施し、経費削減を図る。
	中仙道線	コミュニティバスとの接続を考慮し、ダイヤの見直しを行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量: 40.0に対して実績輸送量48.6であった。	JR佐久平駅への接続を顧慮し、ダイヤの見直しを図る。
	鹿教湯線 ※ワンステップバス車両購入	25年10月より丸子中央病院への乗り入れを開始し、利便性の向上を図っている。また、上田市運賃低減バス実証運行開始にともない、利用啓発活動を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量: 35.0に対して実績輸送量46.7であった。	丸子修学館高校への定期券出張販売と運賃低減バスの利用啓発活動を実施していく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
千曲バス(株)	鹿教湯線	25年10月より丸子中央病院への乗り入れを開始し、利便性の向上を図っている。また、上田市運賃低減バス実証運行開始にともない、利用啓発活動を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:35.0 に対して 実績輸送量40.8であった。	26年10月より終発便を21時台に設定し、利便性の向上を図る。また、丸子修学館高校への定期券出張販売と運賃低減バスの利用促進活動を実施していく。
	青木線	25年10月より上田市運賃低減バス実証運行開始にともない。利用啓発活動を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:50.0 に対して 実績輸送量69.5であった。	26年10月より上田市と連携した青木線運賃低減バスを実施し、終発便を21時台に設定して利用促進を図る。
上田バス(株)	真田線	25年10月より上田市運賃低減バス実証運行開始にともない。利用啓発活動を図った。回数券発売所の4ヶ所増設。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:17.1 に対して 実績輸送量16.5であった。	真田地域公共交通利用促進協議会とのタイアップによる利用啓発。
	菅平高原線 ※ワンステップバス車両購入	25年10月より上田市運賃低減バス実証運行開始にともない。利用啓発活動を図った。回数券発売所の4ヶ所増設。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:23.7 に対して 実績輸送量31.3であった。	真田地域公共交通利用促進協議会とのタイアップによる利用啓発。
	真田自治センター入口線	25年10月より上田市運賃低減バス実証運行開始にともない。利用啓発活動を図った。回数券発売所の4ヶ所増設。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:26.8 に対して、利用者が伸びなかったことから 実績輸送量22.4であった。	真田地域公共交通利用促進協議会とのタイアップによる利用啓発。
信南交通(株)	駒場線	平成26年4月より飯田市、阿智村にて運転免許証返納制度を実施。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 輸送量15.0人以上を確保 みなし系統を含め35.4人となり 目標を達成した。 1便平均乗車数10人以上に対し10.1人、みなし系統を含め14.0人となり目標を達成した。	利用促進に係る啓蒙活動の継続とバス停へのベンチ設置など環境整備の促進に努める

